創立10周年記念山行

| 通算山行NO | NO. 255A | 報告者 | 加藤秀子 |
|---|---|---|---|
| 年 月 日 | 2003年4月27日(日・晴) | 二万五千図＝雲谷・田代平・八甲田山 | |
| 山 名 | 八甲田山・大岳(1585m) | | |
| 体力度＝3　技術度＝登山・3　スキー・3　展望度＝360度　危険度＝それほどない | | | |

# 一度は滑ってみたい八甲田

| | |
|---|---|
| コースとタイム | ロープウェイ山頂駅8:35～山頂公園駅8:45/9:00→大岳11:20→箒場岱12:50/13:30～ロープウェイ山頂駅14:30～酸ケ湯温泉でつぼ足隊と合流 |
| 標高差 | ロープウエイ終点1300m～大岳1585m＝約300m＋200m |
| 参加者 | CL・後藤隆徳(55)、長岡浩一(44)、加藤秀子(54) |

八甲田連峰は、八甲田大岳を主峰にして、赤倉岳から大岳の北八甲田と、櫛ガ岳・乗鞍岳の南八甲田に大別される。私達は北八甲田に向かった。八甲田**ロープウェイ山頂駅**の駐車場は、まだ早い時間のせいか車が１台もない。時間を持て余しその辺を散策する。目敏い会長が雪解けの土に生えた、瑞々しい「ふきのとう」を発見するやいなや、嬉々として大きなビニール袋に収穫し始めた。東北の「ふきのとう」は、静岡の周りで取れるものとは断然大きさが違う。デカいし苦味も少ない。私からみると、山菜というより花に近いと思うが、それでもこの時期には珍しい春一番の香りを摘み取る作業を楽しむ。

駅が人でごった返すようになり、予定時間より早めの始発となる。山頂公園駅までの標高差６５０ｍを約１０分で到着。降り立つと、何やら少し物々しい一団が目立ち、よく見ていると99歳の老齢でバレーブランシュを親子４代で滑った三浦敬三氏の姿がそこにあった。身体が小さく痩せて、少し背が屈み勾配だが、飄々とした雰囲気は「ウ～ン。なるほど」と納得させられる。だが、周りの一段とは浮いていた。

山頂駅からほんの少し登って、ピークから赤倉岳手前のコルまで僅かに滑り込み、そこからシール登行だ。つぼ足隊は、丁度あんばいよく「つれ」が見つかり、その人に頼んで登頂を目指す事になった。天気は上々。風もない。アオモリトドマツ帯からハイマツ帯に変わり主稜線に抜けると雪のない夏道となる。板を担ぎ、ピークから大岳避難小屋までの約１分の滑りを面倒がらずに楽しみ、再び大岳へ向けての急登をジグザグで一気に上がる。なんと言っても歩く距離が少ない。息も上がらず、脚は余裕綽々。こういうのもたまにはいいもんだ。

で、ひと登りで頂上着。10畳ほどの広い平坦地は、柵が張りめぐらされているが、眺望は素晴らしい。東に富士山によく似た形の高田大岳、北には陸奥湾から津軽海峡とさすがに最

下・八甲田大岳をバックに

中・こちら登山隊

上・三浦敬三さん（九十九歳）！

北端の眺めと堪能する。又、人が一杯で人気の高さも伺えた。少し遅れてつぼ足隊が到着。記念写真をとり、腹ごしらえをしたあと、スキー隊は一足先に出発する。

雪は程よく腐り、滑りは良さそうだ。しかし、登りにつけた足跡がボコボコとデブリのようにひどく、それが引っかかり快適とまではいかないが、とにかく滑れることが嬉しくてたまらない。「イヤッホー！」３人の思い思いのシュプールが八甲田に刻まれた。映画で観た「八甲田彷徨」のような極寒のイメージとはほど遠く、たおやかな山、のんびりムードの山、今の時期だから言えるのだろうが、そんなタンポポのような温かい印象を受けた山であった。

箒場岱（ほうきばたい）途中の緩やかな斜面まで一気に下り、赤倉岳の雪崩跡を眺める。本当はこの頂上からの急斜面を攻めたかった・・・とＣＬと長岡。事前の「雪崩で危険」の案内板で、急遽コースを大岳に変更したが、よく見ていると何人か滑っていた。涎を流して「グヤジー」と叫ぶＣＬに、「チクショー！」と叫ぶ長岡。その横で加藤は雪崩跡が凄いなぁ～とスッとぼけ。でも目前の斜面は素晴らしく美味しそうな景観だった。本当は悔しいんだけんね・・・。

そこから狭い沢筋に入る。雪は段々と重くなり、転ぶ回数が増えた。でもザックが軽いから起き上がるのにヒョイってなもの。ＣＬと長岡はさすがに上手い。沢筋を時計の振り子のように流麗に滑り、きわどい斜面を苦もなくトラバース。目一杯楽しんでいた。最後はﾌﾞﾅの林を潜り抜け、箒小屋脇にきっちり滑り込んで終了。お疲れさまでした。

小屋からシャトルバスで八甲田ロープウェイ駐車場まで戻りつぼ足隊の来生と笠間を待つ。「お宅ら、沼津？」車のナンバープレートを見て声をかけられた。自分達も静岡から来たという若者は、御殿場に住み御殿場測候所に勤めているんだと話す。「いやぁー。奇遇だ。うちの会にも富士山観測所長をやってた平井という者がいるんだけど・・・」「いやぁ。その人は私の結婚式にも出てもらいました」「何だ。そうですか～。」等々。話は尽きなく１０年来の知人に出会ったような錯覚さえおこすほど、親しみを感じた。御殿場山岳会にも所属する、西島さんは、「山ヤ」の雰囲気が様になっている精鋭な雰囲気を漂わせていた。

来生から、酸ケ湯にいると電話が入った。此処で合流の予定であったが、どうせ酸ケ湯温泉に入るからと車で向かう事にする。酸ケ湯温泉は、8年前「青春18切符」を使って北海道へ旅行した帰り、急遽八甲田経由で帰ろうという事で通り過ぎた所だが、その時のイメージでは、今にも崩れそうな平屋で湯気が立ち上り、如何にもひなびた温泉という感じであった。目前にある建物は随分と立派な2階建て。温泉地というより観光客相手のドライブイン。外観がそうであれば中味も？泉質は別として浴場も近代的。楽しみにしていただけに、あまりの変わりようにガッカリした。でも一度は入らねば・・・。

１０周年記念山行

| 通算山行NO | No.２５５a | 報告者 | 後藤隆徳 |
|---|---|---|---|
| 年　月　日 | ２００３年４月２８日（快晴） | ２万５千図＝岩木山・弘前 | |
| 山　　名 | 岩木山（１６２４ｍ）・大黒沢弥生コース | | |

上り体力度＝２・易しい　技術度＝スキーは４・やや難しい　危険度＝４・やや危険・滑落注意　頂上の展望＝６・非常に良い、ぐるーと３６０度の展望、高度感あり

# 無木立の圧倒的な大黒沢

| | |
|---|---|
| コースとタイム | 八合目発９：００ー頂上１０：００～２０ー大黒沢ー丸木橋１２：００ー山の神１３：００ |
| 標　高　差 | 上り・リフト終点～頂上＝約１５０ｍ<br>下り・頂上～丸木橋＝約１３００ｍ |
| 参　加　者 | ＣＬ・後藤隆徳（５６）＝頂上鳥居からのダウンヒルに痺れた。<br>加藤秀子（５４）＝片道９００ｋｍ来た甲斐があった。<br>長岡浩一（４３）＝サイコーの滑りに感・感・感激、感動！ |

昨夜は弘前で飲み、弘前城で夜桜を観たりで、お願いしてあった弘前労山・成田さんの「岳」の別荘には泊まれなかった。２３時を回り、鍵を預けてあった隣の別荘の方が寝てしまったからだ。

東に岩木山を仰ぐ別荘の一角を借りてテントを張った。快晴の朝を迎えた。鍵を預かる別荘で鍵を借り、成田さんの別荘の温泉に入った。天然温泉で体が温まった～。

風呂の中で今日の作戦を練る。滑る大黒沢がどこまで雪が続いているか不明で、兼用靴で長い歩きは辛いから、先に空身で車を大黒沢下まで持っていく。

下って来る一番近いバス停に荷物を置いて加藤と車を上げる。リンゴ畑を行くと山ノ神神社に出る。なおも上ると林道は終わった。標高は約３００ｍだった。

見ると何処かのスキースクールの車も来た。そちらは２台だったので乗せて行って貰う。出だしからラッキー。（笑い）

荷台から仰ぐ大黒沢は物凄いド迫力で頂上からモロに高度を落とす。あんな所滑れるか・・・。（まあ、こんな期待と不安が、嬉し楽しのだが）

バス停でこれから温泉に行く地元のオバさんと歓談。話が弾む。スキーヤーも二人来た。一人は地元で一人は東京。バスに乗る。周りは全てリンゴ畑。今、消毒に忙しい。円筒形のトラクターが珍しい。中に消毒液が入っている様だ。

ウトウトしていると標高約１２３８ｍの八合目に着いた。今回の山は楽だ。しかし、ロクな上りもせず滑るスキーは怪我をし易いので注意。

更にリフトで上がる。ここから頂上まで約１５０ｍだ。ちょっと冷たい風の中、簡単に頂上に着いた。ここは正に絶頂と言う感じ。祠と鳥居から滑る東面を覗くと、ナ、ナナンと下が見えない。下が見えない絶壁は多くの場合、キレツがあるので怖いのだ。しかし、よく見ると右に逃げれば大丈夫そう。

それにしても、１６００ｍ程度の山でこの高度感、迫力、大きさは感動的だった。意を決し絶壁に飛び込む。雪は腐り問題なかった。少し下ればもうパラダイスな斜面が延々と続く。この快適さ、爽快感、スピード感、足裏に感じる雪の質量・・・。山スキーをやっていて良かった、と思うのはこんな時だ。

皆も笑っている、顔がフニャフニャだ。肩がようやく癒えてきた浩一は特に幸せそうだ。良かった。手術が上手く行って。加藤は全く問題なくガンガン飛ばす。東京の単独も来た。それにしてもこの大黒沢は凄い。規模は正にアルプス級だ。名前の通り大黒様のお腹みたいな感じである。

５００ｍ程滑ると美しいブナ林に落ちていく。ここで大休憩。陽光が暖かく、冷えたビアと雪を入れた梅酒がウマ～イ。

地元の方が「楽しんで」と下って行った。後はブナの林間を巧みに滑って行くと大黒沢と水無沢の合流点下の丸木橋に出る。東京の単独がいて「ここで終わりです」と教えてくれた。頂上から約１３００ｍの滑りだった。満足だった。サイコーだった。

雑木林を下って行くと先ほどの地元の方が弁当を食べていた。林にはキクザキイチゲが沢山咲いていて感激だった。花が鮮やかで大きい。

林道終点で今度は東京の単独を車に乗せてあげた。再びリンゴ畑から大黒沢を仰ぐ。美しい。美しいラインの沢だった。これ程、スッキリした沢はあまりない。

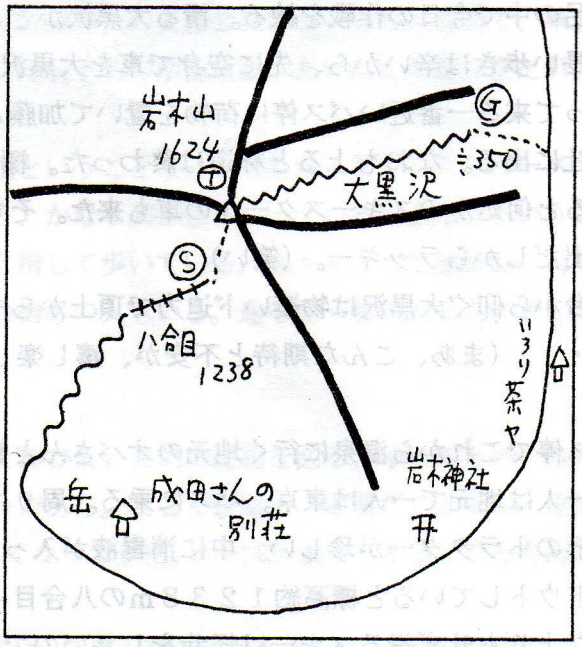
途中の道路脇の小沢で装備を洗う。ふと見ると向かいに美味しそうな茶屋がある。

「いろり茶屋」のノレンが下がる。津軽の弁の気の良いママとビア、熱燗が美味かった。

登山隊の来生等に連絡すると、まだ途中のバスの中とのこと。

再び「岳」の成田さんの別荘に戻り登山隊を待つ。周辺には大きいフキノトウが沢山ある。味噌汁で美味しいのでガッポリ採る。

一週間食べたが飽きなかった。これは私だけだったが・・・。（笑い）



上・岩木山頂上の祠と鳥居

中・圧倒的な大黒沢の斜面

下・ブナ林間を飛ばす

| 山行ＮＯ | ２５５ａ | 報告 | 笠間　節子 |
|---|---|---|---|
| 実　行　日 | ２００３年４月２８日（月） | | |
| 山　　名 | 岩木山　　つぼ足隊 | | |

昨夜はテント泊し、朝、隣の人に鍵を借りる事ができ成田さんの別荘にて朝風呂に、6:40出発。シャトルバス10分遅れ八合目に向かう。八合目はさすが観光客が多くマイカーでここまで。10:00 リフトを利用して稜線上まで行き、数人のスキーヤーと。４月の末ともなると残雪期の登山ハイキング。好天の予報どおり、リフトを降りると風がヒューヒュー。　小屋に入って身仕度をして居ると、八甲田山を同行してくださった名古屋の鈴木さんと会う。朝一で岩木山に登って来たとこれから名古屋に帰ると昨日のお礼を言って別れる。10:25 出発　歩いていると風も止み汗が滲んでくる。頂上1625m 一等三角点 11:00着

昨夜楽しんだ弘前市内を眺め、バスに乗り合わせスキーヤーが私達のメンバーのスキー隊は滑って行ったと滑る姿も見送れなかった。

頂上にこんな碑が　　四方八方の千石の　山を見下し　心にかかる　雲もなきかな　　（桂月）　頂上は少し風があるので下って休む。見晴らしも素晴らしい。かなたを見やればパラグライダーがトンビのように吹き付ける風を気持良さそうに受け私達の所まで上がってくる勢いだった。明日登る白神山ではないかと思う山が霞んでいた。微かに日本海も現れ、展望よく飽きることがない。スキーヤーも多く登ってくる。鳥海山1500m まで10分でとある。雪と戯れる。雪道を歩くと足が沈まない。気ままに歩く。冬山のように厳しくない。新雪のラッセルもなく雪を踏み締める音は心地良い。スキーは簡単ではないが気持はウキウキ、とにかく楽しい。観光用リフトなので下りもリフトで下ってくる時バスが走って来る、早くリフトが降りないかと焦れったい。リフトでバスを見送る。バスは１時間待ち。昼食にカレーとコーヒーをゆっくり味わう。13: 50発バスにてジョツパリバス停まで。来る時のバスの中では寝いいってしまったので道脇に2m位の雪に気付かなかった。成田さんの別荘でスキー隊と待ち合わせ。やはりスキー隊は早い。津軽平野の西南に一際美しい津軽富士として親しまれる岩木山を背に日本海を車は走る。不老不死の湯に入って汗をながし明日のために今日は早めにテン泊場を探す事に。

上・弘前労山・成田さんを囲み

中・岩木山・岳の成田さんの別荘

下・リンゴ畑の向こうに岩木山

創立１０周年記念山行

| 通算山行No. | No. | 報告者 | 長岡浩一 |
|---|---|---|---|
| 年　月　日 | ２００３年４月２９日（火・晴れ） | 二万五千図＝白神岳 | |
| 山　　名 | 青森・白神岳（１２３２ｍ） | | |
| 体力度＝４　技術度＝４　藪漕＝少し？　道標＝有り　展望＝日本海・白神山地 | | | |
| **笹藪を抜けると白神山地が見え、会長はダニーボーイになった。** | | | |
| コースとタイム | 起床３：００―運動公園発４：０５―登山口４：３０～４：５０―二股分岐５：２０―白神岳９：３０～１０：００―登山口１２：３０ | | |
| 標　高　差 | 登山口約１８０ｍ～白神岳１２３２ｍ＝約１０５０ｍ | | |
| 参　加　者 | ＣＬ：後藤隆徳（５６）、加藤秀子（５４）、来生博子（５５）<br>笠間節子（５６）　記録：長岡浩一（４４） | | |

東北ツアー最後の山行である。今日は全員登山隊だ。真っ暗な、深浦の運動公園から国道101号線に降り、南下。五能線に沿って走ると、左手に「白神岳登山口」の看板があり、左折。登山口駐車場にはりっぱな休憩所とトイレがあった。天気、高曇り。

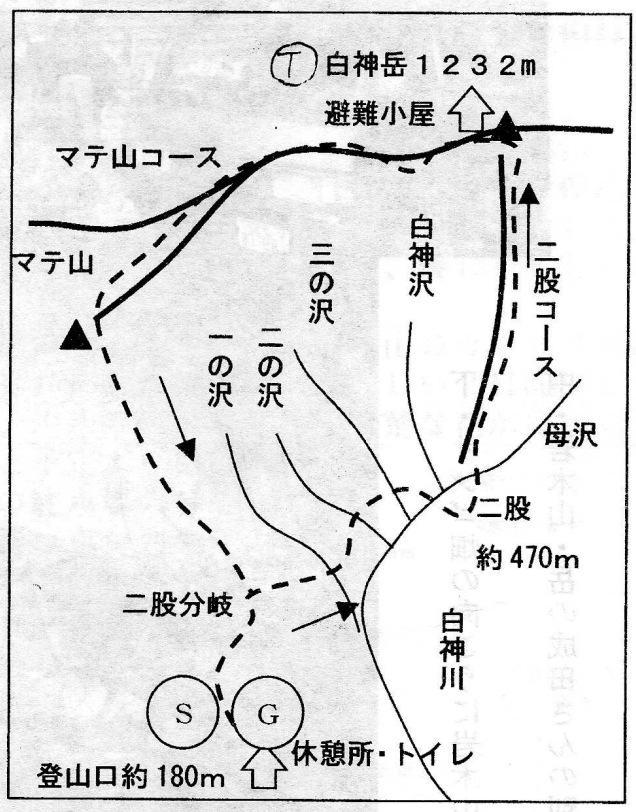
休憩所の横を通り、少し道路を行くと案内板がある。本日は二股コースを登って、マテ山コースを下ることにする。少し行くと登山道となるが、いい道だ。また案内板があって、「二股ルートは未整備の為、どうかマテ山コースをご利用下さい。」とあるが、当然のように二股コースに入る。しばらくは、いい道でシラネアオイやキクザキイチゲが見事だ。

トラバース道を行くと、一の沢を渡る。道は徐々に細くなっていくが、藪はない。イワウチワという、ちょっとイワカガミに似た花があちこちに咲いている。初めて見たが、イワカガミより美人だ。感動。

二の沢を渡ると、対岸は冬の間にずれ落ちる雪に均されたのか、柔らかい泥の急斜面になっていて、道は消えていた。20mくらい先に見える踏み跡めざしてトラバース。確かに道は整備されていなく、時々不明瞭になるが、山慣れた人なら全然問題はない。

三の沢は小さな流れの沢。対岸はやはり泥の壁になっていて、ピッケルを刺しながらトラバースする。

道は本流に降り、後藤さんが釣り糸を



たらすが、腹が減っていないのか反応は無かった。私は腹が減ったので、賞味期限の過ぎたレーズンパン(大好き)を食べる。

道は、その先で本流を渡るが、5メートル程の細い丸太を2本縛って渡してある。立っては渡れないので、一人ずつまたがって尻をずらせて渡る。私は、約 1.3 本の腕で渡れるだろうか。加藤さんが私のリュックを担ぎに戻ってきた。ありがとう。いざ・・。ああ、意外と行ける。10キロ位の荷物迄行けそうだ。すぐ先で、また本流を渡り返す。ここは飛び石伝いに行けた。そして、ここ、二股から尾根上のはっきりした道に取りつく。

白神沢と母沢の間に盛り上がるこの尾根は、ダイレクトに白神岳へと突き上げている。
ぐんぐん高度を上げる。来生さんが遅れだす。笠間さんは調子がいい。雪が出てきて、所々道が不明瞭になってきた。来生さん、「大丈夫だから先行って。」というが、そうもいかない。見えなくなると立ち止まって待つ。笠間さんには、見える範囲から先へ行くなとお願いする。先頭2人は、遥か先だ。雪の重みで寝ころんだ、りっぱなマンサクが花をいっぱいつけていた。その先で後藤さんは待っていた。アイゼンをつける。私は、あまりのペースの遅さに寒くてしょうがないので、オーバーズボンとセーターを着る。

木が小さくなり、笹が濃くなってきた。下を覗くと踏み跡はしっかりしているが、笹がかぶさり藪漕ぎ状態となる。踏み跡を少しでもはずすと、雪で下を向いた濃い笹と灌木で全く歩けない。笹をつかみながら登っていく。笠間さんが、ぶつぶつうわ言？を言い始めて、ペースが落ちてきた。こうなると、来生さんの方が強くなる。途中ぽっかりと藪が切れ、笠間さんは、藪が終わったと勘違いして、思わずニッコリするが、その先の藪を見てがっかり。なおも急な藪をかき分けていくと、徐々に木々が腰位の丈になり、傾斜が緩くなってきた。振り返ると日本海が見える。少し行くと、頂上に出た。5時間かかった。

白神岳は、一等三角点の山である。周りに遮るものは無い。1200m足らずの山だが、主稜線には樹木も無く、気象の厳しさがうかがえる。無雪期には相当人が来るのか、泥地になった所が多い。山頂の少し東寄りにある避難小屋から、後藤さんたちが出てきて、全員で記念写真を撮る。小屋は小さいが中は3段になっていて、快適そう。すぐ隣に立派な公衆トイレがある。この山は雷が多いのか、小屋にもトイレにも避雷針が立っていて、トイレのは強風で折れ曲がっていた。

下山は、主稜線を少し北上し左へ折れる。主稜線からは、東に、向白神岳がよく見えた。急な尾根を下っていき、ブナ林に入る。なぜか黒ずんだ木が多い。途中、登ってくるパーティが3組程いた。マテ山への尾根から分かれる所で休憩した時、後藤さんが、「脇の下がさっきからチクチク痛いので見てくれ。」というので、加藤さんが見てみた。「釣り針が刺さっているよ。」えっ、何で？さっき釣りしたから？そのうち、「きゃあー。」と悲鳴をあげ、「ダニダニダニー。」体長7ミリ位の大きなダニが、這っている。釣り針に見えたのは、胴体が取れて、皮膚に残った頭と前足だった様だ。更にもう1匹いた。計3匹たかっていた。他の人は無事の様。藪漕ぎの先頭は要注意である。

道は途中から、木のチップが敷かれていて、快適だが良くやるわという感じである。下るにつれ、また花が多くなってきて、目を楽しませてくれる。

駐車場に着いて、シートを広げ、ラーメンをたくさん作って食べた。私の器には、タラノメが入っていた。ラッキー。

車で山を降りる途中、畑に大きなフキが一面に生えて？いた。作っているとは思わず？みんなでフキ採りしていると、軽トラに乗った隣の畑の人が来て、注意された。道路脇のはかまわないということで、こちらをたくさん採った。後日、後藤さん宅でいただいたが、大きいのはやはり大味で、伊豆のフキの方がおいしかった。

秋田県に入り、あきた白神駅の近くの、『ハタハタ館』という温泉会館に寄り、能代から秋田自動車道に乗って、夕暮れとなったので、横手で高速を降り、横手駅前で飲み屋を探す。
海のものが食べたいと探すが、海から遠いということで、なし。結局、養老の滝で飲んで、横手駅の貨物のホームにテントを張って寝た。

白神山頂上で１０周年

おめでとう！